第60回

介護が軽んじられる風潮

人材不足要因の「三低二高」

上海における高齢化は中国で最も早く、1979年より始まり、2015年末時点で60歳以上人口の数は、435万9500人、上海戸籍人口の30・2%に相当。高齢者数は283万3800人、高齢化率は19・6%を超え、中国全土で最も高齢化が進んでいる都市になります。

そのような中、上海では既に深刻な介護人材不足が始まっています。2015年の上海老齢人口・老齢事業観測統計情報等のデータによると、養老施設数699件に対し、利用者数は約7万9000人、介護職員数は約1万4000人、在宅介護事業所数は約163ヵ所に対し、利用者数は約30万5000人、介護職員数は約3万1000人。今後更に高齢者の数は増えていくと考え、養老介護職員数約1万3000人、在宅介護職員数約2万4000人が不足していると言われています。そして2020年時点では、施設在宅含め不足数が約5万3000人にもなる試算です。

これらの理由として中国では、「三低二高」を重大な問題として上げています。収入・社会的地位・責任意識サービス水準の低さ3つの「低」に対し、仕事内容負荷・離職率という2つの「高」を指し、この現状を周囲に聞いてみると、「介護は家政婦の延長線上で他人の下の世話をする覚悟さえあれば良い」、「特別な専門知識はいらない」など、誰でもできることと軽んじられている風潮が強くあると言います。

そうではなく、介護は命を預かる専門職という観点に立ち、大学や専門学校等での十分な教育が必要だと思います。例えば職業理念徹底から、専門的介護知識や技術教育、適切なシフト管理や役割分担など、体系的管理が殆ど成されていません。

命を預かる専門職という、社会的意義からの地位向上を第一に、管理者層の専門性向上から始めなければ、そこで働く職員の不安や不満は募る一方、「三低二高」を解決することはできないように思います。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。